

本日は、大阪日赤みどり会 50 周年記念式典に多数ご参加頂き誠にありがとうございます。

私は、6 月の総会に於きましてみどり会会長の指名を受けました本庄康一でございます。宜しくお願ひ申し上げます。

本会は、昭和 36 年（1961 年）10 月に当院の故久野先生が大阪地区で初めて、糖尿病患者の会をお作りになりました。

その当時の様子を折々にふれて受け賜われますと久野先生の熱い想いがひしひしと伝わってまいります。「継続は力なり」と申しますが、先生がさまざまな苦難をのり越えてご尽力されましたことは誠に大な功績であり、本日の「みどり会創立 50 周年記念」という素晴らしい慶事に繋がったと感銘いたしております。会長として、その意義の深さを感じますとともに『この火を決して消してはならない！』と決意を新たにしております。

さて本日は、大阪糖尿病協会会長「権野博」様、当院から院長先生をはじめ多数の先生方が、ご多忙の中まげてこの式典にご参加くださっております。高いところからでは御座いますが心からお礼申し上げます。

本会の活動は、「会員の健康的な生活の維持と会員相互の親睦」を図るため、いろんな活動を行っていますが、代表的なものは春と秋の 2 回の「歩こう会」で、毎回 30 名を超える参加者がありがたいへん好評であります。この式典の後に来年春の候補地を選ぶ為の下見を行う予定です。

また、今後の取り組みの中で「食事会」をやってみてはどうかと言う話が提案され、具体化の方向で動いております。糖尿病患者にとって一番の関心は、「食事やカロリー」のことでありますので多数の参加を期待しております。

みどり会の今後の課題の一つとして挙げるとするならば、会員の高齢化と若い世代の参加が低調なことです。

これは、病院の先生方にも切にお願い申し上げる次第でございます。

私達は、かけがえのない命を有意義に生きることの重要性、すなわちその過程が大事であると考えています。

『語り合いながら歩く』そういう素朴な喜びを願いつつ一步一步進んで行きたいものです。

（大阪日赤みどり会 50 周年記念式典に寄せて）

大阪日赤みどり会について

大阪日赤みどり会は、昭和36年に大阪で最初に設立された最も歴史のある糖尿病患者会です。

平成13年には設立40周年の記念行事を行い、記念誌を発行しました。日赤みどり会は、本院通院中の糖尿病患者、医師、看護師、管理栄養士、医療支援課の職員などで組織し、一泊研修旅行や歩こう会、会報発行、総会などを通して、患者同士の体験交換、親睦を図り、糖尿病に対する知識を身につけるための活動を行っています。また、大阪糖尿病協会の活動にも参加し糖尿病養生の啓蒙にも積極的に関わっています。糖尿病になったからと云って、自分一人で悩むことはありません。糖尿病は毎日の生活こそが治療であり、生活の心がけで合併症を防ぐことができます。糖尿病を持った人からの生活上のちょっとした工夫や養生法を聞いてみてください。糖尿病になって初めて健康の大切さが分かり、糖尿病の養生を通して人生を豊かにすることもできるのです。みどり会に入会し、会の活動に参加してみませんか。糖尿病を持ち、治療を続けながら仕事や趣味に生き生きと生活している人達との出会いがあると思います。みどり会への入会や活動への参加に関しては本館2階8番窓口（医療支援課）でお尋ねください。